

その常識、変えてみせる。



2020年8月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2020年4月9日

上場会社名 株式会社SHIFT 上場取引所 東  
 コード番号 3697 URL https://www.shiftinc.jp  
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)丹下 大  
 問合せ先責任者 (役職名)経営管理部 部長 (氏名)岡 朋宏 (TEL)03(6809)1165  
 四半期報告書提出予定日 2020年4月10日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (アナリスト・機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2020年8月期第2四半期の連結業績 (2019年9月1日~2020年2月29日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年8月期第2四半期	12,830	55.1	1,242	156.7	1,272	165.2	754	188.1
2019年8月期第2四半期	8,271	42.6	483	△10.6	479	△14.7	261	△23.1

(注) 包括利益 2020年8月期第2四半期 811百万円 (160.6%) 2019年8月期第2四半期 311百万円 (△16.0%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年8月期第2四半期	48.03	44.38
2019年8月期第2四半期	18.02	16.53

(注) 1株当たり四半期純利益及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益の算定に用いられた普通株式の期中平均株式数の算出に当たり、「株式給付型ESOP信託口」が保有する当社株式の期中平均株式数を控除する自己株式数に含めております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年8月期第2四半期	16,026	9,626	58.7
2019年8月期	14,975	8,938	57.7

(参考) 自己資本 2020年8月期第2四半期 9,412百万円 2019年8月期 8,645百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年8月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2020年8月期	—	0.00			
2020年8月期(予想)				0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2020年8月期の連結業績予想 (2019年9月1日~2020年8月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	28,000	43.4	2,400	55.8	2,400	55.4	1,450	49.4	92.53

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無

(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 -社 (社名) 、除外 -社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、添付資料P. 8「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 (四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

2020年8月期2Q	15,878,500株	2019年8月期	15,737,000株
2020年8月期2Q	53,341株	2019年8月期	66,260株
2020年8月期2Q	15,700,940株	2019年8月期2Q	14,528,916株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数 (四半期累計)

(注) 期末自己株式数には、「株式給付型ESOP信託口」が保有する当社株式 (2020年8月期2Q 53,100株、2019年8月期 66,100株) が含まれております。また、期中平均株式数の算出に当たり、「株式給付型ESOP信託口」が保有する当社株式の期中平均株式数を控除する自己株式数に含めております (2020年8月期2Q 64,386株、2019年8月期2Q 77,012株)。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(セグメント情報)	8
(重要な後発事象)	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善により、緩やかな回復基調が続いていくと期待されております。一方で、米中貿易摩擦のリスクなどに加えて、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大により、世界経済の先行きは非常に不透明な状況となっております。

当社グループがサービスを提供するソフトウェア関連市場においては、社会全体に変革を起こすDX（デジタル・トランスフォーメーション）という概念が浸透し始めてきており、また、よりスピーディに実装とテストを繰り返して開発を進めるアジャイル開発の浸透など、目まぐるしく市場が変化しております。

加えて、労働人口の減少と政府が掲げる働き方改革の下で注目されているRPA（ロボティック・プロセス・オートメーション）は普及が進み、BPM（ビジネス・プロセス・マネジメント）、AI（アーティフィシアル・インテリジェンス）、IoT（インターネット・オブ・シングス）などとの連携も具現化されてきております。また、新型コロナウイルスの感染拡大を阻止する施策として拡大している自宅での勤務や不要不急の外出自粛要請により、各種のネットワークやエンターテインメントなどのコンテンツのセキュリティレベルについては、改めて見直しがされております。

こうした経営環境の中、当社グループでは当連結会計年度を売上高1,000億円企業に向けた、2つ目の通過点である成長戦略「SHIFT300 -シフトスリーハンドレッド-」の最終年度として位置づけ、既存顧客にむけた付加価値向上による売上規模の拡大、新たな業種の開拓、新たな採用手法の開発や採用母集団の拡大による採用力の向上を重点課題として取り組んでおります。

この結果、当第2四半期連結累計期間においては売上高12,830,546千円（前年同期比55.1%増）、営業利益1,242,317千円（前年同期比156.7%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は754,146千円（前年同期比188.1%増）となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

#### ①エンタープライズ市場

エンタープライズ市場では、金融業、流通業、製造業、通信業、ウェブサービス業など社会基盤を支える企業における業務システムや情報システムにおいて、ソフトウェアの品質保証に関するサービス全般を提供しております。

当第2四半期連結累計期間では、前連結会計年度より特にIT投資規模が大きい通信・保険業界などの各分野を注力業界として定め取り組んだ結果、長期的な関係構築を視野に入れたプロジェクトへの参画が進み、こうした新規顧客からの売上高が徐々に増加してまいりました。この結果、当第2四半期連結累計期間のエンタープライズ市場の売上高は11,565,406千円（前年同期比57.1%増）、営業利益は2,275,481千円（前年同期比26.2%増）となりました。

#### ②エンターテインメント市場

エンターテインメント市場では、モバイルゲーム、ソーシャルゲーム、コンシューマゲーム等を消費者に提供のお客様に向け、品質管理工程やデバック業務のアウトソーシング、カスタマーサポート業務のアウトソーシングにより、お客様ビジネスの付加価値を向上させるサービスを提供しております。

当第2四半期連結累計期間では、競合との差別化を図ることによる業界内認知度の向上や、既存顧客からの売上高が増加したことにより、収益基盤の拡大を進めました。この結果、当第2四半期連結累計期間のエンターテインメント市場の売上高は1,265,139千円（前年同期比39.3%増）、営業利益は226,356千円（前年同期比11.7%増）となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

## (資産)

当第2四半期連結会計期間末における総資産につきましては、前連結会計年度末に比べ1,050,978千円増加し、16,026,307千円となりました。これは主に、売上高の増加等に伴い売掛金が519,417千円、新たに子会社を連結したことに伴いのれんが276,193千円増加したこと等によるものであります。

## (負債)

当第2四半期連結会計期間末における負債合計につきましては、前連結会計年度末と比べ362,177千円増加し、6,399,452千円となりました。

## (純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産につきましては、前連結会計年度末と比べ688,800千円増加し、9,626,854千円となりました。これは主に、利益剰余金が754,146千円増加したこと等によるものであります。

## (キャッシュ・フローの状況)

当第2四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という)の残高は、前連結会計年度末に比べ181,645千円減少した結果、8,509,577千円となりました。各キャッシュ・フローの状況とその要因は以下のとおりであります。

## (営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間において営業活動によるキャッシュ・フローは810,387千円の収入(前年同期は56,130千円の支出)となりました。これは主に、売上債権の増加408,353千円や法人税等の支払額381,920千円等の資金の減少要因があったものの、税金等調整前四半期純利益の計上1,272,223千円、未払金及び未払費用の増加150,449千円等の資金の増加要因があったことによるものであります。

## (投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間において投資活動によるキャッシュ・フローは474,186千円の支出(前年同期は550,451千円の支出)となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出145,999千円や連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出278,204千円等によるものであります。

## (財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間において財務活動によるキャッシュ・フローは520,375千円の支出(前年同期は641,623千円の収入)となりました。これは主に、株式の発行による収入172,370千円があったものの、長期借入金の返済による支出356,247千円や連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出316,049千円等によるものであります。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2020年8月期の業績予想につきましては、2019年10月10日に公表いたしました連結業績予想から変更はありません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年8月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年2月29日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	8,691,223	8,509,577
売掛金	2,909,200	3,428,617
たな卸資産	186,672	376,078
その他	245,677	386,580
貸倒引当金	△17,927	△20,515
流動資産合計	12,014,846	12,680,337
固定資産		
有形固定資産	520,525	576,124
無形固定資産		
のれん	1,207,774	1,483,968
その他	442,245	427,021
無形固定資産合計	1,650,020	1,910,989
投資その他の資産	789,936	858,854
固定資産合計	2,960,482	3,345,969
資産合計	14,975,329	16,026,307
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	474,634	478,426
1年内返済予定の長期借入金	669,781	640,236
未払費用	1,127,096	1,146,020
未払法人税等	389,541	460,618
賞与引当金	96,941	99,833
その他	1,014,761	1,498,279
流動負債合計	3,772,756	4,323,415
固定負債		
長期借入金	2,103,628	1,919,465
その他	160,890	156,571
固定負債合計	2,264,518	2,076,037
負債合計	6,037,275	6,399,452
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	3,268,039	28,727
資本剰余金	3,222,851	6,467,180
利益剰余金	2,214,450	2,968,596
自己株式	△50,636	△41,269
株主資本合計	8,654,704	9,423,235
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	△9,283	△11,084
その他の包括利益累計額合計	△9,283	△11,084
新株予約権	1,842	1,072
非支配株主持分	290,790	213,631
純資産合計	8,938,053	9,626,854
負債純資産合計	14,975,329	16,026,307

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2018年9月1日 至2019年2月28日)	当第2四半期連結累計期間 (自2019年9月1日 至2020年2月29日)
売上高	8,271,891	12,830,546
売上原価	5,585,241	8,628,246
売上総利益	2,686,649	4,202,300
販売費及び一般管理費	2,202,713	2,959,983
営業利益	483,936	1,242,317
営業外収益		
受取利息	310	857
為替差益	1,863	5,383
助成金収入	9,470	23,910
その他	571	4,055
営業外収益合計	12,215	34,207
営業外費用		
支払利息	2,709	3,964
持分法による投資損失	7,035	—
資金調達費用	6,470	—
その他	177	336
営業外費用合計	16,392	4,301
経常利益	479,759	1,272,223
特別利益		
投資有価証券売却益	3,951	—
段階取得に係る差益	8,570	—
特別利益合計	12,521	—
税金等調整前四半期純利益	492,281	1,272,223
法人税等	180,298	459,006
四半期純利益	311,982	813,217
非支配株主に帰属する四半期純利益	50,218	59,070
親会社株主に帰属する四半期純利益	261,764	754,146

四半期連結包括利益計算書  
第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2018年9月1日 至2019年2月28日)	当第2四半期連結累計期間 (自2019年9月1日 至2020年2月29日)
四半期純利益	311,982	813,217
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	△585	△1,800
その他の包括利益合計	△585	△1,800
四半期包括利益	311,396	811,416
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	261,178	752,345
非支配株主に係る四半期包括利益	50,218	59,070

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2018年9月1日 至2019年2月28日)	当第2四半期連結累計期間 (自2019年9月1日 至2020年2月29日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	492,281	1,272,223
減価償却費	84,269	121,004
のれん償却額	49,637	85,888
貸倒引当金の増減額(△は減少)	2,551	2,588
賞与引当金の増減額(△は減少)	11,156	2,892
受取利息及び受取配当金	△310	△857
支払利息	2,709	3,964
為替差損益(△は益)	△2,644	△5,337
持分法による投資損益(△は益)	7,035	—
投資有価証券売却損益(△は益)	△3,951	—
段階取得に係る差損益(△は益)	△8,570	—
売上債権の増減額(△は増加)	△433,327	△408,353
たな卸資産の増減額(△は増加)	△28,655	△184,627
前払費用の増減額(△は増加)	△13,615	△27,195
仕入債務の増減額(△は減少)	22,906	△31,748
未払金及び未払費用の増減額(△は減少)	154,525	150,449
その他	△76,626	214,523
小計	259,372	1,195,413
利息及び配当金の受取額	310	857
利息の支払額	△2,709	△3,964
法人税等の支払額	△323,129	△381,920
法人税等の還付額	10,025	—
営業活動によるキャッシュ・フロー	△56,130	810,387
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△139,966	△145,999
無形固定資産の取得による支出	△27,746	△32,188
投資有価証券の売却による収入	7,351	—
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△432,506	△278,204
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入	75,610	—
敷金の差入による支出	△33,841	△37,594
敷金の回収による収入	648	1,520
その他	—	18,278
投資活動によるキャッシュ・フロー	△550,451	△474,186
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
長期借入れによる収入	700,000	—
長期借入金の返済による支出	△201,116	△356,247
株式の発行による収入	164,570	172,370
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	—	△316,049
その他	△21,830	△20,448
財務活動によるキャッシュ・フロー	641,623	△520,375
現金及び現金同等物に係る換算差額	2,023	2,529
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	37,064	△181,645
現金及び現金同等物の期首残高	2,474,400	8,691,223
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,511,465	8,509,577

## (4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前題に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2020年1月7日に無償減資を行いました。この無償減資等の結果、当第2四半期連結累計期間において資本金が3,239,311千円減少し、資本剰余金が3,244,328千円増加し、第2四半期連結会計期間末において、資本金は28,727千円、資本剰余金は6,467,180千円となっております。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 2018年9月1日 至 2019年2月28日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注1)	四半期連結損益 計算書計上額 (注2)
	エンタープライズ 市場	エンターテインメ ント市場	計		
売上高					
外部顧客への売上高	7,363,584	908,306	8,271,891	—	8,271,891
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	7,363,584	908,306	8,271,891	—	8,271,891
セグメント利益	1,803,168	202,589	2,005,758	△1,521,821	483,936

(注) 1. セグメント利益の調整額△1,521,821千円は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費等の全社費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. のれんの償却額は、全社費用であります。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

当第2四半期連結会計期間において、株式会社アッションの株式を取得し、連結の範囲に含めております。当該事象に伴い、当第2四半期連結累計期間において全社資産としてのれんが300,763千円増加しております。

## II 当第2四半期連結累計期間(自 2019年9月1日 至 2020年2月29日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注1)	四半期連結損益 計算書計上額 (注2)
	エンタープライズ 市場	エンターテインメ ント市場	計		
売上高					
外部顧客への売上高	11,565,406	1,265,139	12,830,546	—	12,830,546
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	11,565,406	1,265,139	12,830,546	—	12,830,546
セグメント利益	2,275,481	226,356	2,501,838	△1,259,521	1,242,317

(注) 1. セグメント利益の調整額 △1,259,521千円は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費等の全社費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. のれんの償却額は、全社費用であります。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

## (重要な後発事象)

## (株式取得による子会社化)

当社は、株式会社Nadiaが運営する事業を譲り受けることを目的として、同社より新設分割によって設立される株式会社ナディアの全株式を、当社が設立する中間持株会社を介し取得して子会社化することを、2020年2月25日開催の取締役会においてその前提条件と本件株式を取得することの決定について代表取締役に一任することを決議し、それに基づき2020年3月10日に株式譲渡契約を締結いたしました。なお、2020年3月31日付で、株式会社Nadiaは株式会社ナディアの新設分割を完了し、当社は、株式会社ナディアを子会社化いたしました。

## 1. 株式取得の目的

当社グループは、今後ソフトウェア開発において、その迅速性やデザインの充実といった観点の重要性が増すと考えております。そのため、この度、Webおよびアプリ領域において、顧客の「UI/UX」課題解決に尽力、制作から運用までの一気通貫でのクリエイティブサービス提供実績と高い知見を持つ株式会社ナディアを子会社化いたしました。

## 2. 買収する会社の概要

名称 株式会社ナディア

事業内容 Web/モバイルサイト制作、スマートフォンアプリ開発、グラフィックデザイン、映像/3DCG制作、VR/AR/AIコンテンツ制作

事業規模につきましては、当該対象会社が、株式会社Nadiaからの新設分割会社(2020年3月31日設立)であるため、該当事項はありません。なお、新設分割対象事業の直近事業年度(2019年12月期)の実績は、売上高2,005,188千円であります。

## 3. 株式取得の時期

2020年3月31日

## 4. 取得する株式の数、取得対価及び取得後の持分比率

取得する株式の数 普通株式 1株

取得対価 1,650,000千円

取得後の持分比率 100%

5. 支払資金の調達方法

自己資金

6. 株式譲渡契約に定められた条件付取得対価の内容及びそれらの今後の会計方針

(1) 条件付取得対価の内容

2022年12月期の営業利益が一定の水準を達成した場合、達成水準に応じて取得対価を追加で支払うこととなっており、上記「4. 取得する株式の数、取得対価及び取得後の持分比率」の取得対価1,650,000千円は変動する可能性があります。

(2) 今後の会計処理方針

追加支払が発生した場合には、取得時に支払ったものとみなして、取得原価を修正しのれんの金額及びのれんの償却額を修正することとしております。